



対談：

## 柴田元幸 × マイケル・エメリック

## 「小説を訳すということ」

アメリカ文学を日本語に翻訳する柴田元幸氏と日本文学を英訳するマイケル・エメリック氏。いま最も注目される東西の翻訳者が初めて対談を行ないます。柴田氏が翻訳したトマス・ピンチョンの『メイスン&ディクスン』は、日本語翻訳が非常に難しいといわれた作品です。そして松浦理英子の『親指Pの修業時代』、川上弘美の『真鶴』という独特な文体の日本語小説を英訳したマイケル・エメリック氏。文学を翻訳することの楽しさ、翻訳家ならではの喜びなど、それぞれの国の翻訳を取り巻く世界の違いを中心に、「小説を訳すということ」について語ります。



© Shimabukuro

## 柴田元幸：

東京大学文学部教授。アメリカ文学研究者。翻訳家。1954年東京生まれ。ポール・オースター、スティーヴ・エリクソン、リチャード・パワーズら、現代アメリカ文学を翻訳。

## マイケル・エメリック：

カリフォルニア大学サンタバーバラ校アシスタント・プロフェッサー。日本文学研究者。翻訳家。1975年ニューヨーク州生まれ。高橋源一郎『さようなら、ギャングたち』、山田太一『遠くの声を探して』などを翻訳。



© Shimabukuro

日時：2010.7.31 (土)  
14:00 - 16:00 (13:30 開場)

場所：日本財団 ホール

定員：200名 (要予約)

入場料：1,000円 (当日受付でお支払いください)

【主催】NPO法人日本文学出版交流センター

【協力】日本財団

参加ご希望の方は、電話、FAX もしくは E-mail にてお申し込みください。

● 申し込み、問い合わせ先 ●

日本文学出版交流センター (担当: 清水)

TEL : 03-5577-6507

FAX : 03-5577-6508

MAIL : event@j-lit.or.jp

URL : http://www.j-lit.or.jp

## 交通アクセス

東京メトロ銀座線

「虎ノ門」駅

3番出口より徒歩5分

